

高齢者を支える地域の仕組み

(原文)

津村 優斗 (13歳)

和歌山県

海南市立亀川中学校

僕が起こしたい地域の変化は、孤立した高齢者が出ないようにすることです。今、日本では少子高齢化が進んでいるのでそれと同じく孤立した高齢者もこの先多くなってくると思います。そうなってくると、国だけで高齢者のことを支えることができなくなり、地域の人や地元の学生の力が必要になってくると思ったからです。

まず、高齢者の孤立を防ぐためにしなければいけないことはあいさつをすることです。高齢者は外にあまり出ず、つい家に引きこもりがちなのがあると思います。しかし、高齢者などの地域の人と出会った時に、「おはようございます。」や、「こんにちは。」と元気良くあいさつをすることで高齢者たちは、また外に出てみようという気持ちになり、家に引きこもってしまうことを防ぐことができると思います。また、あいさつをしたことが自分の中で印象に残り相手の身近な変化にも気付くことができると思うので、あいさつを元気にするということが高齢者の孤立を防ぐための一つのポイントだと考えます。

そして高齢者の孤立を防ぐための二つ目のポイントは、祭りなどの地域のイベントに高齢者が積極的に参加することです。高齢者は家に引きこもってしまうと運動が少なくなってしまうので、健康状態が悪くなってしまいがちです。しかし、地域のイベントに参加すれば体を動かすことができ、高齢者が地域の人とも交流とすることができます。その交流によって、そのイベントに参加した高齢者の人が地域の人に悩みを相談し、それに対する解決策を知ることができると思うので地域のイベントに積極的に高齢者が参加することが必要だと考えました。

最後に、高齢者の孤立を防ぐための三つ目のポイントは健康維持をするために地域の公民館などが行っている教室に高齢者が参加することです。孤立をしてしまう高齢者の人は市町村が行っている福祉を十分に受けることをできない人がほとんどだと思います。どのような福祉を自分が受けられるのかを知るために一番最適な場所が公民館や市役所だとぼくは思うからです。また、定期的にそういった教室に行くことが高齢者たちの「生きがい」や「楽しみ」になると、公民館で行われる教室に定期的に通っている祖母の姿を見て思ったからです。

しかし、このような地域のイベントや公民館の教室に参加したいと思っている高齢者がいたとしても、いつ、どこで、どのような活動があるのかわからないので参加できない高齢者もいると思います。

そこで、いろいろな活動情報をかいたポスターを自分たちが作ったり、学校行事に積極的に高齢者を招いたりすることが自分たちのできることだと思います。

日本は、この先更に少子高齢化が深刻化することが予測され、二千六十年の高齢化率が四十%になっているというデータもあり、約七年後には二千二十五年問題も本格化してきます。こういった高齢者率増加の中で、国だけではこの問題を解決できなくなってくると思います。このような状況の中でこれからは地域が高齢者を支えなければいけなくなり、若い人の力も必要になってくるでしょう。このような問題に備えて、今、自分たちでもできるあいさつを大切にしていきたいと思います。